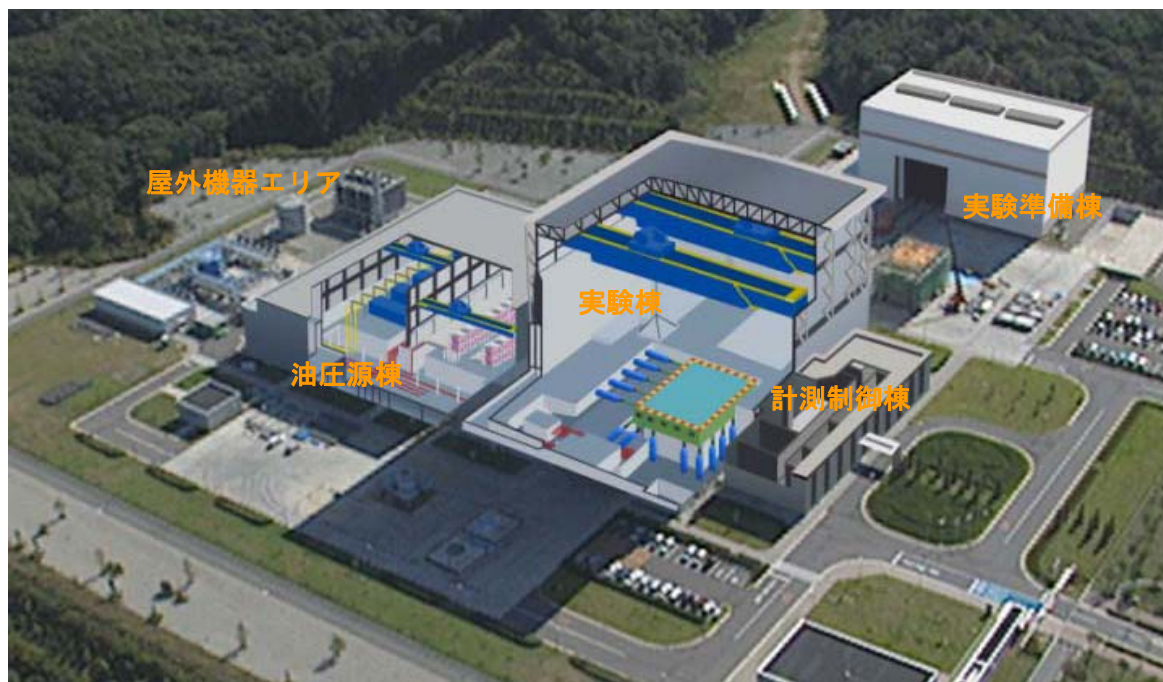


都市施設の耐震性評価・機能確保に関する研究



実大三次元震動破壊実験施設（Eーディフェンス）全景



「病院スタッフのための地震対策ハンドブック」評価WG

02

スタッフ ステーション

CVDの活用

スタッフステーションは多くのキャスター付仕器が密集する空間であり、主な被害は物品の移動・散乱です。動等は、壁や床に固定することで転倒を防ぐことができます。また、キャスターをロックすることで仕器の回り回る被害を軽減し、引き出しやトレイの脱落防止具によって散乱する被害を抑えることが可能です。転がりやすい薬品板は、テーブル上でトレイに乗せるなどの対策が考えられます。今回の実験では特に、テーブルの脚をゲルで固定する対策が有効でした。



- 設置された主要機器**
- チェア
 - テーブル
 - コピー機
 - 薬品板
 - トレイ
 - 薬品カート
 - コピー機

対策を行わない場合の被害事例

**1 仕器が移動し
遊離路を防ぐ**

キャスター付の仕器が床を走り回り、困ったスタッフはステーションを出ることも困難となります。



▲ワゴン車、キャスター付の椅子が床を走り回り、遊離路を防ぐ

**2 コンテナが転倒し
薬品板などが落下**

薬品板や応用用成置物の入ったコンテナが転倒すると、周囲にいるスタッフに落下するなどの危険性があります。



▲薬品板が置かれたテーブルから落下、散乱 ▲のトレイがワゴン車から落ちて落下、パッドが散らばったワゴン車も転倒

**3 カルテなどの重要書類が散乱し、
情報の把握が困難に**

紙を挟んだカルテや、トレイの薬などが散乱して互いに入り混じると、それらの種別や患者の特定が難しくなり、震災直後の必要ときに使用できなくなります。



▲カルテや書類などの印刷物が落下、散乱



高層建物の上層階（27階）と下層階（6階）をモデル化した試験体



オフィスエリア



住居エリア

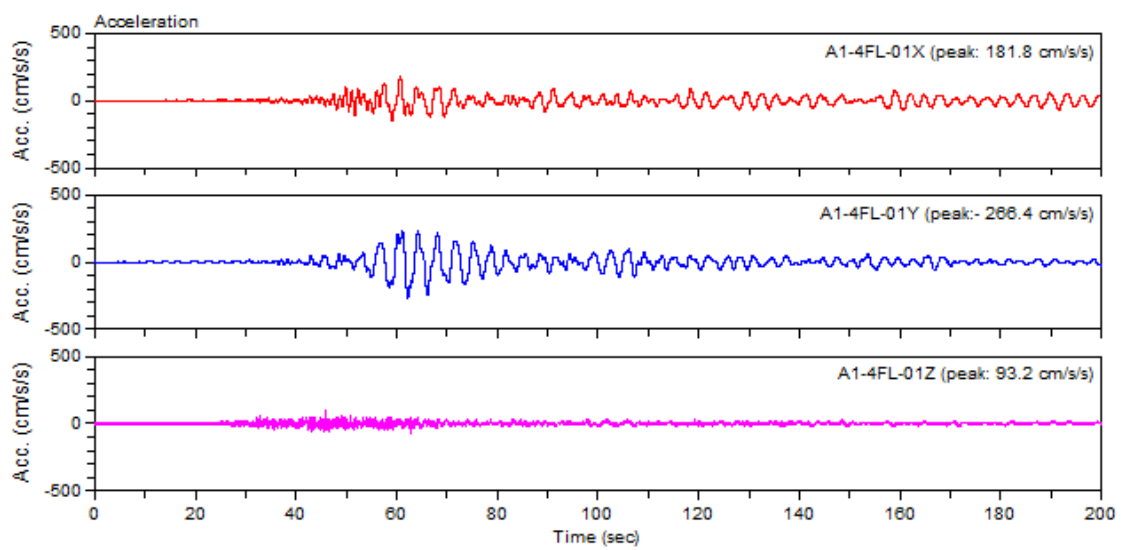


天井裏



書庫ゾーン

試験体内部の状況



実験結果（高層建物の上層階（27階）のゆれと加振65秒後の室内状況）